

特典⑦：学級の「軸」を動きに変える！キーワード10選 & 行動翻訳AIプロンプト

学級目標や先生の願いが「壁の飾り」で終わってしまうのは、「言葉が抽象的」が原因であることが多いです。

この資料は、先生が選んだ「キーワード」を、子どもが明日から迷わずに動ける「具体的な行動」へと変換するための、仕組み化（OS）専用ツールです。

1. 学級経営のOSを定める「キーワード10選」解説

まずは、先生がこの1年、あるいは今、この時期にクラスの「軸」としたい言葉をここから選びます。（他にあればそれでもOK！）

キーワード	仕組み（OS）としての意味・狙い
① 誇り（プライド）	誰が見ていなくても、自分たちの「型」を守る。高学年として、下級生に胸を張れる姿、それが「カッコいい」という文化をつくる。
② 挑戦	失敗を恐れずにシステムを更新し続けること。「できた・できない」を恐れず試す姿勢。やってみたからこそ見える景色がある、感じることもある。
③ 協力	「4つの部活動」を動かす潤滑油。一人の力ではなく、組織で役割を果たす合理的な関係。リーダーとフォロワーの関係構築。誰もがリーダーでありフォロワーである。
④ 判断力	指示待ちを脱却する核心。「今、仕組みに照らして何をすべきか」を自分で決める力。どちらがより「値打ちある行動か」を選び取る力。
⑤ 努力	決めた仕組みを「やり続ける」エネルギー。過程を評価し、安定したリズムを保つ。
⑥ 自治	本講座の最終ゴール。「自分たちで運営し、解決する」先生の介入を減らすための力。
⑦ 貢献	自分の役割がクラス全体の平穩に直結していることを実感し、互いに支え合う。ここが充実すると自己肯定感の高まりにもつながる。
⑧ 考動	反射的に動かず、一度立ち止まって「クラスの目的」を考えてからアクションを起こす。よくある造語ではあるが、使用頻度は高め。

キーワード	仕組み（OS）としての意味・狙い
⑨ 尊重	好き嫌いの感情を超え、他者の立場や意見を認める。子どもには難しい内容だが、今の日本に欠落した部分があるとすれば、これも入るだろう。
⑩ 継続	「一度やる」を「当たり前」に変える力。習慣化こそが学級の安定（OSの安定）を生む。

2. 抽象語を「生きた行動」に変える！AI翻訳プロンプト

選んだキーワードを、子どもたちが「何をすればいいか」迷わないレベルまで分解します。以下の【プロンプト】をコピーして、ChatGPTやGeminiなどのAIに貼り付けてください。



【AIへのコピー用プロンプト】

以下のルールに従い、学級経営のキーワードを「具体的な行動目標」に翻訳してください。

■ あなたの役割

21年の教員経験を持ち、教務主任として若手を指導してきた「仕組み化」の専門家。

■ 翻訳のルール

1. 「しっかり」「がんばる」などの抽象語は一切禁止。
2. 第三者が「できた」か「できていない」かを客観的に判定できる、具体的な動作やセリフで記述。
3. 精神論ではなく、学級を組織として安定させるための「合理的・現実的な行動」を優先。
4. 各場面につき3つずつ、箇条書きで出力。

■ 翻訳したいキーワード

「[ここに選んだキーワードを記入]」

■ 翻訳する4つの場面

1. 授業（学習の部）：挙手、ノート、話し合い、準備などの場面。
2. 生活（生活・健康の部）：挨拶、移動、整理整頓、給食などの場面。
3. 休み時間（仲間の部）：友達との関わり、トラブル対処、遊びの場面。
4. 組織活動（4つの部）：部ごとの役割、朝・帰りのミニ会議での動き。

3. 活用イメージ（例：キーワード「判断力」の場合）

AIを使うと、以下のような「具体的で、明日から指導に使える」行動リストが数秒で手に入ります。

▼ ### 📖 授業

- 先生の指示が出る前に、課題が終わったら自習用プリントを自分で取りに行く。

- 話し合い中、意見が止まったら「まず〇〇さんから話そうか」と進行を始める。

▼ ### 🏠 生活

- 廊下を歩いている際、列が乱れたことに気づいた先頭が、自ら止まって整列を待つ。
- 給食の配膳中、余ったおかずをどう分けるか、自分たちでルールに従って決める。

▼ ### 👤 組織活動

- 帰りの会で、自分の部（生活の部など）の動きが「仕組み通りだったか」を根拠を挙げて報告する。



先生へのアドバイス

キーワードを1つ選んだら、このプロンプトで行動に落とし込み、まずは**1つだけ「今週の重点行動」**としてクラスに提示してください。

「何をもって達成とするか」が子どもと共有されて初めて、学級経営のOSは動き出します。この「評価」の部分がおろそかになっている学級、先生は多いものです。